

アートの交差展を、 ふりかえる。

この夏、郡山市立美術館で開催された「アートの交差展」。出品作家のみなさんと観客の方に、ひと夏をふりかえってもらいました。

今泉 裕紗

(国際アート&デザイン専門学校 講師)

今年の夏、また素敵なお会いがありました。大学の先輩でもあり、大好きな作家である青山ひろゆきさんをはじめとする新進アーティストの参加したこの企画展は、新しい風を吹き込んでくれました。

美術館に入り、まず待ち構えていたのは、前後に動く並んだ熊3体と回り続けるクロコティル。一体これは何なのか。胸が高鳴る一方でした。郷愁漂う色鮮やかなキャンディーとおちゃめな天使から始まり、巨大アスパラやサラリーマンのマネをする猿、電球の光、動いては止まる動物。そして最後に辿り着いたのは、普段は感じる事ができない音の世界でした。

情報化、記号化してしまった現代では、私達の日常は止まること

青山 ひろゆき

AOYAMA Hiroyuki

今回の展覧会は、作家としてだけでなく鑑賞者としても素晴らしい展覧会でした。一つのテーマをもとにした現代美術の展覧会は、これまでいくつも見てきましたが、中でも今回の展示内容は、現代美術を知る上で密度が濃く充実していて良かったように思います。テーマだけでなく、作家そして学芸員が同世代で統一されていたためか、異種多様な表現手段による作家の集まりにも関わらず、そのニュアンスがぶれることなく鑑賞者が最初から最後まで気楽に楽しめることができたのではないのでしょうか。少なくとも私はそう感じました。

私の展示室は、平面でありながらも空間をインスタレーションしたという考えから、作品を普段よりかなりハイポジションで展示してみました。通常平面作品とは、人間の目線よりも若干低めに展示することで、首も疲れず落ち着いて鑑賞できるようにしてあるものです。しかし、今回ハイポジションに展示したのは、作品一つ一つの鑑賞と同時に、鑑賞者の視線を上げることで視野が広がりがパノラマ上に展示空間を楽しんでいただくという意図がありました。そして、フロアの中心に椅子を配置することで、その効果はよりまりました。椅子に座って鑑賞された方は、より効果的に体感することが出来たのではないのでしょうか。また、壁面ごとにメリハリをつける工夫もしました。ラムネで統一された壁面、ピンクの背景、穏やかな色調、そして制作年などです。

最後になりましたが私は、今回の展示で唯一の福島県出身者です。これまでには、東京などの都市部が主な発表場所、なかなか地方で展示する機会に恵まれませんでした。それは、私の作品の方向性が、現代美術であったためかもしれません。地方で今回のような現代美術の展覧会を開催したことは、画期的であるのと同時に、とてもうれしいことでありました。今後様々な場所で皆様に見ていただけたらと思います。



北村 奈津子

KITAMURA Natsuko

今となって、振り返ってみても、なぜ、郡山市立美術館で展示させていただいたのか、不思議である。いつかは、美術館で展示できたら……。と夢のように思っていたのだけだ。

「死期が近いのかもしれない」と思った。自分が美術館に展示できるのは、晩年か、死後だと、信じていたからだ。

アートの「交差点」というものがあつたとして、おそらく、私は、その交差点を通りかき、運よく、交わることができたのであろう。

「アートの交差点」では、本当に多くの方と関わることができた。美術関係者の方々然り、出品作家の方、来場いただいた方々。

例え、たまたま、であったとしても、私や、私の作品と関わって下さる、見て下さる、その時間を、いただいているのだから、本当に有難いことだ。

私のやっていることはあまりにも、ささやかで、意味など無いに等しく、作り続ける理由よりも、やめてしまう口実の方が遥かに多いけれど、作品を介することで築ける関係がある、ということが、私にとっての喜びであり、意味のあることだと思っている。

活動を続けていけば、また、いつか、どこかで再びつながったり、出会ったりする。その楽しみがアートの「交差点」にはある。つくり手と、鑑賞者との、道は続き、つながっている。

願わくば、また、「アートの交差点」で交わった人々と、どこかの交差点で出会えたら、と思っている。

「追記」展覧会が終わった今でも、朝の天気予報では郡山の天気、気温が気にかかる。「今日の郡山の天気は晴れ。最高気温25度。東京とは3度差だ。そう、確認をして、本日の制作にとりかかる。実家である宮城へ帰省する際に通過する街のひとつでしかなかった郡山と、私の新しい関係だ。旅と同じように、気にかかる場所が増えるのは、心楽しい。

「追記」展覧会が終わった今でも、朝の天気予報では郡山の天気、気温が気にかかる。「今日の郡山の天気は晴れ。最高気温25度。東京とは3度差だ。そう、確認をして、本日の制作にとりかかる。実家である宮城へ帰省する際に通過する街のひとつでしかなかった郡山と、私の新しい関係だ。旅と同じように、気にかかる場所が増えるのは、心楽しい。

